

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1145 2015年8月号

国有林モニター勉強会開催

7月24日、徳島県三好市祖谷地区において、第1回国有林モニター勉強会を開催しました。 【詳細は3頁】



祖谷川地区の地すべり防止工事の説明
(対岸の現地と見比べながらの勉強会)

四国森林管理局長交代

～大山誠一郎局長着任会見～

〔総務課〕



がうかがえました。

大山局長からは、『四国は森林率が高く、特に高知県は森林率が日本一（84％）となっている。』

その様な中で、私ども国

七月二八日付けの人事異

動に伴い八月七日に、大山

誠一郎局長の着任記者会見

を行いました。

記者会見では、在 high のテ

レビ、新聞社各社の取材を

受けマスコミの関心の高さ

有林が経営する森林をきち

んと整備・管理して水源涵

養、山地災害の防止などの

公益的機能をより高度に発

揮させることは当然のこと

であり、特に現下の重要課

題である林業の成長産業



大山誠一郎四国森林管理局長着任会見

化、あるいはそれを通じて

の地方創世、山村振興に向

けて、微力ながら力を注い

で行きたい。

また、川下では、森林組

合連合会の新事務所の建

設に当たってのCLTの使用

や、木質バイオマス発電、

大型製材工場の稼働等、ダ

めている国有林はきちんと

安定的に材を供給していく

ことを心がけていきたい。

また、一般会計化された

国有林では、シカ食害対策、

技術開発、人材育成等の重

要課題でこれまで以上に地

域に貢献していきたい。』

等の抱負を述べました。

昭和五九年四月

農林水産省食糧庁入庁

（管理部企画課）

平成三年一月

林野庁林政部林政課課長

補佐（総務班担当）

平成一六年七月

文部科学省科学技術・学

術政策局政策課資源室長

平成二四年四月

（独）農業・食品産業技

術総合研究機構理事（総

務担当）

平成二六年四月

農林水産省北陸農政局次

長

平成二七年七月

現職

「国有林モニター勉強会」を開催

〈企画調整課〉

七月二四日に徳島森林管

が参加されました。

理署管内で、本年度第一回
目の国有林モニター勉強会
を開催しました。当日は、
天候にも恵まれ、四国四県
から国有林モニター一三名

開会にあたり木村業務管
理官から、「実際に治山事
業現場や森林の状況を見て
いただき、国有林や森林に
ついての理解が深まる勉強

会になれば幸いです。」と

の挨拶がありました。



排水トンネルの状況を見学

午前中は、当管理局が
行っている「木の文化」を
支える取組の例として「祖
谷のかずら橋」を見学しま
した。徳島森林管理署長よ
り橋の架け替え用資材「シ
ラクチカズラ」について、
安定的な供給や資源育成等
の取組の説明を行った後、

午後からは、治山事業実
施箇所において、国が直轄
事業で行った地すべり対策
工事について、徳島署の治
山担当者から事業の概要や
工事の必要性などの説明を
行い、地すべりの大きな要
因となる地下水を除去する
集水井（しゅうすいせい）
や排水トンネルの施工状況

実際に橋を渡りました。



国有林モニター勉強会参加者

を見学しました。

モニターの方々は、

各見学箇所や移動中
の説明にも大変熱心
に聞き入り、二ホン
ジカの食害等、見学
以外のことも活発に
質問や意見を交わす
など国有林や森林・
林業について理解を
深めていました。

※国有林モニター制度
開かれた「国民の森林」
の推進に向け、実際の事業
地の見学等を行いながら国
有林野事業に対する理解を
深めていただくとともに、
国有林について幅広く国民
の意見・要望をいただき、
国有林野の管理経営に役立
てることを目的に設けてい
る制度。

国立大学法人高知大学農学部との 連携協定について

締結式を実施

〈企画調整課・技術普及課〉

七月二七日、当森林管理

定を締結しました。

局と国立大学法人高知大学
農学部（以下、大学）との
間で連携と協力に関する協

定を締結しました。 当日は、当森林管理局に
おいて双方の関係者が参集
し、浅川京子局長（当時）

連携協定締結式



と石川勝美高知大学農学部
長による調印式を行いました。
た。

再生、そしてそれらを支え
る循環型社会の形成に資す
る調査研究及び人材育成等
の推進を図ることを目的と
しており、「森林資源の有
効活用」と「森林資源を基
盤とする循環型社会の形
成」などが連携、協力事項
として謳われていま
す。

良い研究の場として利用し
ていただければと考えてい
ます。
協定締結後、記者から
の「今回の協定の双方のメ
リットは何か」との質問に
対して、浅川局長は、『今
後の森林・林業を支える担
い手の育成、人材育成が必
要不可欠な中、国有林の
フィールドを使って学生の
方々に研究・研修をしてい
ただき、将来的に高知の主
要産業である林業を担って
いただければと考えてい
る。今回、協定を結ぶ大学
と連携・協力することがで
き、将来の人材育成・確保
という点でメリットがある
と考えている。



浅川四国森林管理局長（左側）と
石川高知大学農学部長（右側）の
連携協定締結式

学の有する高度な知
識を共有させていた
だければありがたい
と思う。』と今後に向
けた意欲を表明しま
した。
一方、大学は、『農
学部には森林科学の分
野があるが、実習を
行う演習林では、限
られたことだけしか
提供できない。

今後、国有林を
フィールドとして連
携した取組を行うこ
ととしており、学生
に高性能林業機械に
よる伐木造材、架線
系作業システム、路
網作設等国有林で
行っている事業を肌
で感じてもらうより

また、木質バイオマス、
シカ食害等従来の林業技術
の枠を越えた話もできて
おり、このような新しい
ニーズや課題に対応するた
め、外部の高度な知見をい
ただきたいと考えている。
そういった点からも高知大
がつくと考えている。

また、木質バイオマス、
シカ食害等従来の林業技術
の枠を越えた話もできて
おり、このような新しい
ニーズや課題に対応するた
め、外部の高度な知見をい
ただきたいと考えている。
そういった点からも高知大
がつくと考えている。

四国森林管理局は、高知
県内を中心として非常に広
大な森林及び多様な森林の
生態系を有しているのでそ
のフィールドを活用させて
いただくことにより、学生
に様々な森林に対応する力
がつくと考えている。

また、大学では、様々な技術、基礎技術を培っていただきますが、それを実践・応用し、検証して行くためには、実際に事業を実施している方と協力しながら過去を確かめ、更に次へと繰り返す必要がある。このような意味で連携・協力のメリット

がある。』と大学側の考えを説明されました。当森林管理局にとって、大学との協定は、昨年の愛媛大学に次いで、二例目となりました。今後は、この協定の目的に添った様々な取組を行っていくこととしていきます。

各地のたより



「木工教室を開催」

〈ふれあい推進センター〉

六月一六日、高知県宿毛市立小筑紫小学校で、五年生一四名を対象に、糸のこ盤を使った木工教室を行い

ました。

始めに、「木材の特徴」

と題して、「木の長所は軽くて丈夫なこと、加工しやすいこと、湿度や温度を調整すること。短所として、性質がすべて同じでないこと、シロアリ等の被害を受

けやすいこと。」等について説明を行い、続けて、木の重さの比較実験も併せて行いました。



五年生作品製作中

次に、糸のこ盤の使用手法や注意点を説明した後、あらかじめ準備した板を使用し、事前の希望に添った木工作品の切り抜き作業

行いました。後日、小学校から送られてきた児童の感想文には、「糸のこ盤を使った工作は初めてだったので、板をまわしながら切るところが難

に取り組んでいきました。その後、色塗りやボンドで接着して完成させていました。ほとんどが児童が休憩時間も忘れるほど夢中になって、約二時間半の間作品製作に取り組

み込んでいました。完成した作品を見せ合って、みんなとてもうれしそうな表情でした。また、七月八日には、同



一・二年生作品製作中

じく宿毛市立小筑紫小学校
一年生一一名と二年生八名
を対象に、カブトムシ、ク
ワガタムシの木工作品製作
用キット一式を準備して、
木工教室を開催しました。

作り方を説明した後、児
童達が各キットをボンド
で板に貼り付けて、約三〇
分程でカブトムシとクワガ
タムシが見事に完成しまし
た。

わずかな時間で実施した
木工教室でしたが、木と
ふれあってもらい、完成後
にはみんなに「上手にでき
た。」「楽しかった。」「また
作りたい。」と、とても喜
んでいました。

「年間を通じた
森林環境学習」
〈ふれあい推進センター〉

六月二十九日、愛媛県松野
町立松野西小学校の四年
生二五名を対象に森林環境
学習を実施しました。今回



校庭の樹木学習の様子

は、森林の働きなどの学習
と樹木名板作製に対する支
援の要請を受け、校庭にあ
る樹木の名前や特徴を記し
た、樹木名板や立て札を製
作・設置して森林への関心
を持つてもらうことを目的
にしています。

最初に、当センター
の活動についてふれ
た後、下敷き「森林
の大切な働き」を配
布して、日常生活を
送る上で、大切な自
然の一つである森林
の働きについて説明
しました。

次に、校庭で行っ
た樹木学習では、
三四種の樹木につい

て学習とヒノキの樹木名板
の作製を行いました。ヒノ
キの樹木名板の作製では、
ポスターカラーで科名と和
名を書き、余白には思い思
いのイラストを描いて完成
させました。

後日、担任の先生から、
「子供達に渡した樹木図鑑
の資料ですが、みんな、大
事なところなどに線を引い
たりして、真剣に取り組ん
でいたようでした。」と感
想をお聞きしました。

七月九日には、同じく、
四年生二五名が、二回目の
森林環境学習として木工教
室を行いました。

木材は軽くて丈夫なことや
加工しやすいことから、い
ろいろな生活用品に使われ
ていることやきちんと手入
れをすれば千年以上もの耐
久性のある建物もできるこ
となど、木の良さについて
説明しました。続いて、世
界で一番重い木（リグナム
バイタ）と世界で一番軽い
木（バルサ）の実物を使っ
て重さの比較実験も行いま
した。

次に、刃物や道具を使っ
ての自由製作です。怪我を
しないよう実演しながら、
道具の使用方法や注意点に
ついて説明した後、児童達

は、サクラ、ミズメ、ヒメ
シヤラなどの木の枝を使っ

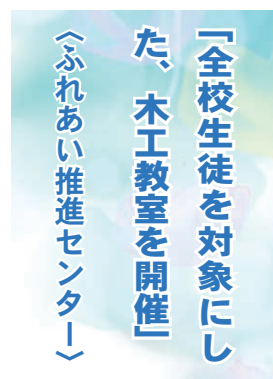
て木工作品づくりに挑戦しました。

最初は慣れないノコギリやナイフ等を使つての作業に苦労していた児童もいましたが、一つ出来上がる

の作品を作る児童もいました。

また、木目や樹皮をうまく使って作品を作る児童もおり、手軽に自分のオリジナルができることで夢中で取り組み、あつという間に過ぎた三時間でした。

林の大切さ、木材利用などについての理解を深めてもらいたいと考えてます。



七月七日、高知県土佐清水市立中浜小学校で、全校

生徒一八名を対象に木工教室を開催しました。

最初に、材料となる「木材の特徴」について説明しました。

木材は、古くから私たち日本人の生活になくてはな

らないもので、豊かな森林にめぐまれた日本では、木材を簡単に手に入れること

ができて、たくさん木材を利用して「木の文化」を創ってきました。木材には優れた性質(長所)や欠点(短

木工教室の様子



その後、日本で一番軽い木(桐)、世界で一番軽い木(バルサ)と世界で一番重たい木(リグナムバイタ)について説明し、世界で一番軽い木と重たい木の二つの重さを比較する実験を、

天秤ばかりを使って行いました。実験結果、答えは一センチ角のバルサ九個と一センチ角のリグナムバイタ一個が同じ重さでしたが、

ちよつとした数当てゲームにみんな歓声をあげていました。

木工教室では、二〜三年生は、あらかじめ当センターが準備した板を使用して、事前の希望に添った木工作品を糸のこ盤で先に切



木工教室の様子

らの年間活動を通して、森

材を簡単に手に入れること

明しました。

て、事前の希望に添った木

り抜いたものを、児童に自
由に色塗りとボンドでの貼
り付けをしてもらいまし
た。

また、四く六年生は、サ
クラ、ミズメ、ヒメシヤラ
などの木の枝を使って、自
由製作に挑戦しました。ノ
コギリやナイフ、剪

定バサミなどを使
い、小枝等を加工し
て、慣れない手工具
に悪戦苦闘しながら
も、オリジナル作品
を完成させました。

最後に、今日の木
工教室について、児
童から「二く三年生
の作っていた、木工
作品が、かわいらし



オリジナル作品完成

三好市の依頼により 森林環境教育を実施 〈徳島森林管理署〉

七月九日、徳島県祖谷ふ
れあい公園において、西祖
谷中学校生徒一二名・吾橋

小学校児童三名・榎生小学
校児童三名を対象とした森
林教室を実施しました。

はじめに、当署の仕事内
容や取組について説明を行
い、木を育てることや、荒
れた谷を治すことなどの国
有林の仕事や山の手入れを
行うことで豊かな森林が守
られていくことを学習して
もらいました。

地球温暖化の学習では、

地球の温度が上昇すること

で私達の日常生活に様々な

悪影響があること、森林が

二酸化炭素を吸収し、その

木材を伐採して建築材等と

して使用しても地球温暖化

防止になることを説明しま

した。続いて実際に木片に

触れながら木がもつ「やわ

らかい」「温かい」などの

特徴を感じてもらい、さら

には、節電などで家庭で

きる地球温暖化防止対策に

ついて説明しました。

また、県内にはニホンジ

カなど、たくさん動物

がいること、中でも、絶滅

の危機にある四国のツキノ

ワグマの生態にも触れまし

森林教室



最後に八月一日の「山
の日」の趣旨等を説明し「山
の日」について理解をして
もらいました。

これからも、森林や地球
環境について関心を持って
もらえる森林環境教育とな
るよう取組を継続していく
こととしています。

夏休みの森林教室

〈徳島森林管理署〉

た、ニホンジカの被害を受けた木を実際に見て、触ってもらい徳島の森林の現状の一端を理解してもらいました。その後、お待ちかねの木工教室を開始すると、子供達はあつという間にネームプレートのベースを作り終えて、飾りのマスコット制作に取りかかりました。見本にはないシカやロボットのマスコットをオリジナルで作ったり、たくさん作ったりと、個性的な作品がたくさん出来上がりました。

七月二三日、徳島市上八万児童館において小学生三七名を対象とした森林教室を行いました。

その後、お待ちかねの木工教室を通じて、森林に親しみを持ってもらう取組を継続していきたいと考えています。

はじめに、森林管理署の仕事や徳島の山のこと、森林の大切さに加え、徳島の森林に住む動物の写真を見てもらいながら、たくさん動物が森林に住んでいることを説明しました。その後、動物の食べ残した木の実、特にリスに食べられたと思われるエビフライにいた、松ぼっくり、ま

最近の子供たちが木



森林教室の様子

夏の思い出づくり・親子サマーキャンプに参加

〈徳島森林管理署〉

七月二五日から二六日にかけて、徳島県美馬市木屋平の中尾山高原にて連合徳島の主催による「親子サマーキャンプ」が開催されました。このイベントは徳島県内の親子を対象に毎年催されており、今年は八一名もの参加がありました。当署からは森林教室等の講師として支援を行いました。



森林教室

開会式では、当署署長が挨拶に立ち、漢字の「休」(木陰で人が休む)を例に

森林の特徴やシカ等の食害、希少種の四国のツキノワグマの話などについて話

をしました。

後半、写真・ペン立ての

木工体験になると、子供達は見本を見ながら、オリジナルのキャラクターを張り付け、見事な作品を作っていました。

植樹の準備班は当署職員を含め一二名で昨年植樹した箇所の被害木やシカ害防止ネットの整理、草刈り等



植樹の様子

を汗だくになりながら行いました。

翌日の植樹には、八一名全員が参加し、コナラの苗木を全員で植樹していきました。参加者は家族や友達と一緒に植えることができました。満足そうな顔をしていました。

今回の森林教室は屋内と屋外に分かれて実施しましたが、森林についての理解と木材を使うことがいかに大切であるかを再認識してもらったことができたと感じました。今後、実施する森林教室についても、一つ一つ丁寧に取り組んでいくことが重要と考えています。



七月二十七日、本年三月に

締結した「赤羅木山・大モリ・佐々連尾山地域森林整備推進協定」に基づく森林

共同施業団地の連絡調整会議を協定相手方の森林整備センター・松山水源林整備事務所関係者、当署関係者、さらに局から流域管理指導官が出席して開催しました。

源林造成事業地（一〇〇ha）の合計二九六haに森林共同施業団地を設定したものであり、協定締結後初めての連絡調整会議となりました。

連絡調整会議では、宇摩森林組合会議室において本年度のそれぞれの事業計画及び今後の間伐や路網の整備計画の予定等の協議を行うとともに、現地において森林共同施業団地全体の区域確認や本年度から施工を開始する民有林側の森林作業道の計画路線の踏査を参加者全員で行いました。

この森林共同施業団地は、当署土居森林事務所管内の佐々連尾山国有林（一九六ha）と隣接する水

当署では、今後とも森林整備センター・松山水源林整

備事務所と森林共同施業団地以外のことについても、密接に情報交換を行いながら連携し森林施業をしていくこととしています。



連絡調整会議の状況

森林総合研究所森林整備センター高知水源林整備事務所の複層林施業箇所を視察

〈安芸森林管理署〉

【樹種】

上木、下木ともに、スギ、ヒノキ

【面積】

約八〇ヘクタール

【契約方式】

費用負担者が高知水源林整備事務所、土地所有者が

香美市、造林者が高知県森林整備公社の三者による分収造林契約

に取り組んでみて得られた知見を伺うことができました。

一つの伐採区域の大きさは、群状区は二ヘクタールまでを限度とし、带状区は

当該施業地では、三段の林冠層からなる複層林を指して、带状と群状の二種類の複層林が造成されています。第一回目の

まず、複層林施業の対象地では、複層林施業は一斉皆伐に比べて伐採による裸地化面積が少なく、表土流出の防止や水源かん養機能の低下防止の効果が期待できるため、ダム上流や水道

また、路網整備が進み上下を作業道に挟まれた区域では、車両系により搬出できる箇所は群状の設定を、区

七月一日、当署の主伐・再造林PTのメンバーで、森林総合研究所森林整備センター高知水源林整備事務所の複層林施業箇所の視察を行いました。
当該施業地の概要は以下のとおりです。

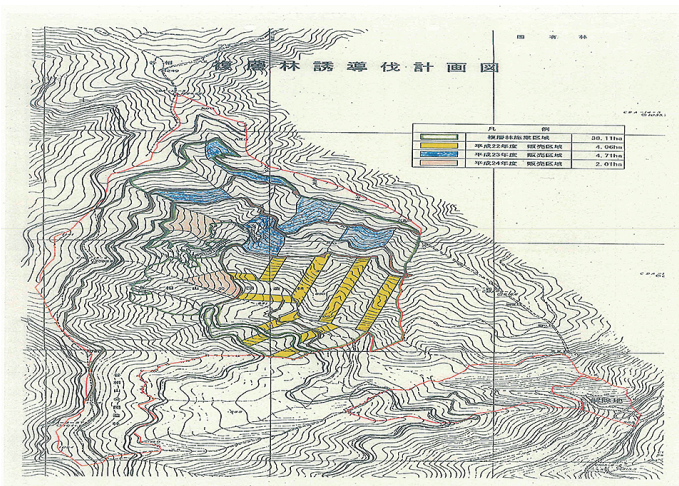
【所在地】

高知県香美市香北町谷相

山

【林齢】

上木五一年生



視察箇所の複層林誘導伐採計画図

復層伐は、带状箇所が平成二二年度に、群状箇所が平成二三年度と二四年度に行われ、いずれも植栽済みとなっています。

現地では、水源林整備事務所に対しては、作業道が十分に整備されているなど地理的条件がよいか、若しくは今後、作業道の整備が見込まれる森林のいずれかを要件としているのと

なお、群状区と带状区とは、伐区の設定、伐採・搬出、植栽・保育、シカネットの設置・見回りのすべて

実際に複層林施業

とでした。

トの設置・見回りのすべて

の面で、群状区の方が効率

た。

的に実施できるとのこと

で。なお、群状箇所のシカ

また、販売形態では、立

隣接するため、ネットの巡

木販売になることから、一

定量以上の搬出材積が確保

できる面積規模が必要との

留意事項も説明がありまし

た。

植栽については、水源か

ん養保安林の指定施業要件

の下、一ヘクタール当たり

二、四〇〇本の植栽になっ

ていました。また、シカネッ

視察箇所の複層林誘導伐
箇所遠景



複層林施業現地

検討会の開催

〈安芸森林管理署〉

八月六日、当署奥山国有

林（高知県東洋町）におい

て、複層林施業現地検討会

を開催しました。

本検討会は、我が国の人

工林資源が主伐適期の齢級

構成に移行してきている中

で、これまで実施してきた

間伐に加え、主伐をして再

造林をするという時期に入

ってきていることを踏ま

えて、主伐の一施業方法と

しての複層林施業につい

て、実際に複層林施業区域

を設定して、現地検討会

を行ったものです。

当日は、当署職員が業務

グループや森林官など二二

名、四国森林管理局から計

画課、森林整備課、資源活

用課の職員七名が参加しま

した。

現地検討会の箇所は、ヒ

ノキ長伐期複層林施業群

切ることにより、グループやウインチ、スイングヤーダでの集材が効率的に実施できるように考慮しました。

現地検討会では、まず最初に、今、なぜ、主伐をして再造林をする時期になってきているのか、人工林資源の齢級構成の推移を踏まえて、基本的な知識を再度

共有するとともに、一斉皆伐施業と複層林施業の関係について、森林の公益的機能の発揮状況や双方の森林施業の作業条件の差異を確認しました。

また、当署において、これまで実施してきた昭和四〇年代以降の複層林施業

箇所五カ所の現状と課題を

踏まえるとともに、本検討会に先だって、七月一日に実施した森林総合研究所森林整備センター高知水源林整備事務所における複層林施業箇所の現地視察及び聞き取り結果を踏まえて、

本検討箇所において群状複層林を適用したことを確認しました。

その後、林内の作業道を歩きながら、群状伐採区域と保残区域の箇所、上木や下層植生、作業道の状況を確認しながら、現地検討を行いました。

その中で、立木販売において現道を活用する場合の補修経費の見方や枝条の取

り扱い、当箇所における具

体的なシカ防護ネット設置上の課題、植栽・保育時に

おけるシダを中心とした下層植生への対応の必要性等

について、意見を交わしました。最後に、複層林施業の適地判定、群状複層林と带状複層林の選択、一伐区の大

きさや伐区の配置など伐区設定、シカ防護ネットの設置方法など、今後、複層林施業に取り組みにあたっての留意点を確認しました。

複層林施業については、

これまででも取り組んできましたが、時代とともに森林・林業をめぐる状況が経済面、技術面ともに変化し

てきている中で、より効率的に取り組んでいく必要があると考えています。現地

で、実際に現場を確認しながら検討を行うことは、現場感覚を共有するという意味で、とても有効だと感じました。

今後も、様々な森林施業を対象に、現地検討会を開催し、署職員間で現場感覚、技術の共有を図っていく考えです。

最後に、本検討会で使用した資料は配付可能ですので、入手希望の方は、当署の森林技術指導官に連絡願います。



現地検討会(石橋署長挨拶)



伐採区域と保残区域の検討